

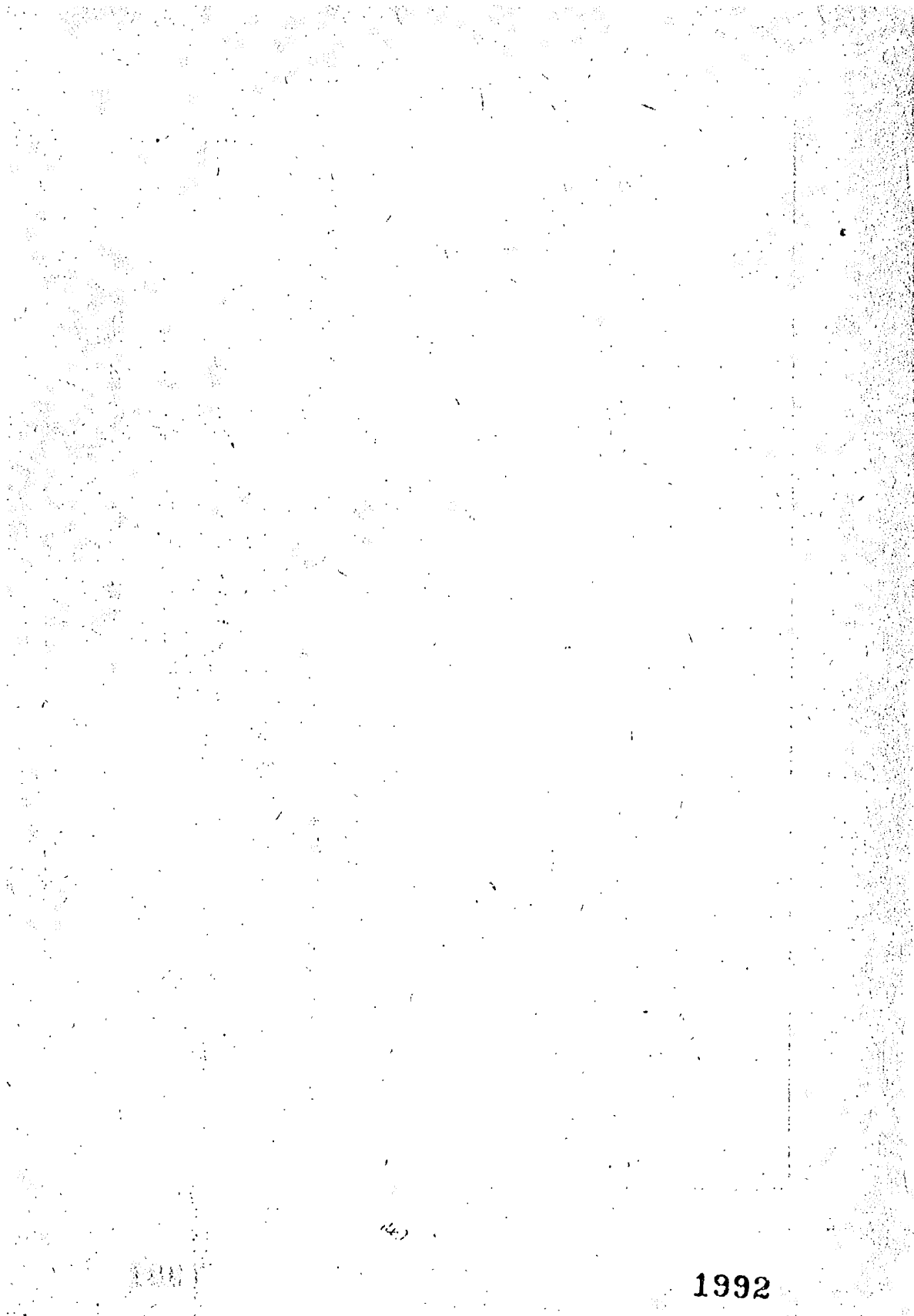
第一三軍司令部

年月日	概
統	<p>縮成完結の状況</p> <p>支那派遣軍總司令部の人員を基幹とし昭一四一〇、三〇日上海に於て縮成完結す。</p> <p>初代軍司令官は支那派遣軍總司令部官兼任</p> <p>行動の概況</p> <p>上海、蘇州、南京、杭州の要地確保及び同地区の作戦指揮</p> <p>江蘇省兼界、塩城、如皋附近の作戦（蘇北作戦）指揮</p> <p>安徽省廬州西北方附近の作戦（淮南作戦）指揮</p> <p>安徽省宣子、深水同地区の作戦（太湖西方作戦）指揮</p> <p>浙江省諸既目（金華附近の作戦（浙東作戦））指揮</p>

(1)

1989

昭三、四、一	向角波、温州周辺地区の作戦（浙東作戦）指揮
六、八	江苏省塩城阜寧附近の作戦（塩城作戦）指揮
五、九	江陰西方及太湖地区の作戦指揮
六、二〇 四、三〇	江苏省太倉崑山常熟、江陰、無錫、常州、浙江省嘉善、嘉善、附近の清郷工作
五、九	浙贛線周辺地区の作戦（浙贛作戦）参加
六、五	江苏省太倉崑山地区の作戦（太倉作戦）参加
五、六	安徽蚌埠西方附近の作戦指揮
昭三、一	中十三軍作戦地区の治安確保及周辺地区の作戦指揮
五、二 八	單荘屯地区の治安確保
昭三、九 六	上海東站最高司令官として上海東站部隊の撤退輸送事務を処理す
六、二一 七、三	内地帰還の爲上海出發 同年六月三〇日鹿児島島上陸、同六月三十日復員完結 除隊召喚解除完了



1992

兵力

土肥少佐以下一八〇名

一、内地除隊者一八〇名（表務整理者三名を含む）

二、残務整理者二名

陸軍少佐

土

肥

正

倍

陸軍上等兵

池

登志雄

（六月二十日、復員本部に到着六月二十六日残務整理終了同日帰郷）

甲午ノ戦

一、 部隊名 才十三軍司令部

二、 指揮官 陸軍少佐 土肥正信

三、 編成

長陸軍少佐

八昭二、五、二〇附を以て独立混成旅団よりカー三軍司令部に
転属せる土肥少佐以下一八〇名

二別に独立混成旅団九〇旅団司令部山本少佐以下七四名を内地港灣到
着迄土肥少佐の指揮下に入りしめらる。

四、 行動

一、 六、五 上海市政府に於て検査終了

二、 六、一二 特種輸送艦下カニロ号乗船

三、 六、一八 慶見島港上陸

四、 若松大尉以下一七八名除隊一九日帰郷

昭三、五、二五	一部隊名	第十三軍司令部 黒島大尉
五、二九	二部隊長	第十三軍司令部の一部隊
五、二九	三行 動	陸軍大尉 黒島実雄
六、一四	上海東陽出航	
五、二九	博多上陸	
六、一四	博多松原線に於て他部隊天然痘患者発生の為隔離せらる。	
六、一五	除 隊 (召集解除)	
六、一五	四兵 力 黒島大尉以下八名	
六、一五	五、疾病整理の為黒島大尉及北林中尉の二名	
	復員本部に到着	

甲支内

昭三、三、二六	一、部隊名 才十三軍司令部北村隊の一部
二、二七	引率者 陸軍中尉 杉山 宗一
三、一九	二、行動 陸軍中尉 杉山宗一以下四四名 蘇州出發
三、二〇	上海着 上海に於て上船命令を受け上海市政府に帰泊
三、二二	V。二五号により上海港出帆す。 船中に於て他部隊より天然痘患者一名発生上陸停止し隔離せらる。
三、二九	博多港上陸
三、三〇	四十三名(下士官九兵三四)博多駅より帰船す。
四、一	残りの整理のため杉山中尉二日市候員本部に到着す。 残りの整理完了す。

第十三軍司令部の一部

引率者 陸軍中佐 浦野 孝次

四六

浦野中佐以下四二九名は帰還のため上海を出発、部隊主力と分離す。

り

浦野中佐以下四二九名（将校三三名、准下士官 七六名、兵一六六名）

（一五五名）は「リバティ」型V。49号により上海出航

四二

堀尾港上陸、浦野中佐、藤原曹長を除き他は

異常なく夫々帰郷せり。

四一三

浦野中佐、藤原曹長は残りの整理のため二日市に至り専ら処理に任ず。

四一五

業務終了夫々除隊帰郷す。

昭三、六二五	部隊名 才十三軍司令部の一部（才五次帰還要員） 部隊長 陸軍大佐 石京幸次 編成状況の状況
行動	才十三軍命令を以て才十三軍才五次帰還要員の編成下令 編成状況
六、一	一七〇〇 上海上航
六、四	一四〇〇 博多入港
六、九	一〇〇〇 " 上陸
イ	一五〇〇 後員式奉行

PEK 115

部隊名	第十三軍司令部の一部
軍司令官 陸軍中將 松井太久郎	
四一三	川村少佐以下一三八名帰還の目的を以て上海を出発部隊主力と分離す。
り	川村少佐以下一三八名（將校九名 准士官三名 下士官一九名 兵一〇七名）は 海防艦蒼美に依り上海出航
四一九	佐世保上陸全員要状日く夫々帰郷せり。
四二一	星野勝男大尉、西沢豊准尉は残務整理者となり 二日市に至り事務整理に任じ
四二三	任務終了帰郷す。

(11)

0008

1999

部隊行動

第十三軍司令部の一部

部隊長 曹長 鈴木 寛

四一〇

鈴木曹長以下三三〇名帰還の目的を以て上海出發主力と分高す

〃

〃

〃

(下士官名

兵二七五名

重傷四〇名)は十三師

廿丸に依り上海出發

四一六

博多港上陸鈴木曹長以下三三〇名は奥需多く夫々帰郷せり

中支利根遺棄兵隊、香山並義准尉は残ひ整理を為す

四一六

二日市に至り事の処理に任じ 四月 日終了帰郷す

手交内

い

才十三軍司令部の一部 (才三三)

司令官 中將 板井太次郎

四三〇

井上中佐以下四五四名(傷者五二、下士官九七、兵一六七、軍醫一三八)帰還の目的を以て上海乗船場に集結司令部主力と分離す。

五一

リハ万シリア泊により上海出港

五三

博多着七日上陸 同日才五便人員を除き異状なく夫々帰船せり。

五七

井上中佐以下二名は残存の整理者となり
二日市に至り事務処理に在り

五九

終了帰船す 中野少佐は復員本部附として但瀬主計少佐以下六名は才十三軍決算整理委員として、又平野主計大尉以下二名は才十三軍固有財産整理委員として夫々残留す。

昭三、三五

三七

三一

三四

三十四

部隊名 卅十三軍司令部の一隊（卅三部隊の一隊）
部隊長 陸軍技術大尉 飯塚卯之助（兼務）
行 動

帰還復員要員編成を命下せられ
編成完結

内地帰還のため上海港出帆

博多港上陸復員式等行

に於いて除隊召集解除

人員其他異状無し

人員内訳

准士官一名、兵二五名

計二六名

第十三軍司令部の一部

引率者

陸軍大佐

大山頭一郎

四四

大山大佐以下四〇名（内一名（軍医）は上海に於て従軍解除者）は帰還の目的を以て上海を出發

部隊主力と分離す。

同日大山大佐以下四〇名（將校一六名、准下士官三名、兵一九五名、軍医一六〇名）は「リバテ」型V〇ノ号により上海出帆

四一〇

博多港上陸、大山大佐以下二名を除き他は同日奥備身く夫々帰郷せり。

四一一

大山大佐、要崎准尉は残務整理のため二日市に至り事務処理に任ず

四一五

任務完了帰郷す。

中文内 7

昭三、一、一

一、二

一、五

第十三軍司令部陸軍衛生少尉 西沢計喜

(三つの兵病の陸医員及患者を統一指揮して選せる者三名の分なり)

一、任務 選送患者護送七七〇名

右選送患者護送兼指揮官岡谷少尉の指揮に依り上海出

出港

博多入港同日上陸

同日選送患者は小倉四九〇名筑紫二八〇名收容を完了す

護送員三名中一名は一、一五目 博多にて召集解除他二名西沢少尉野口兵長は

選送患者の整理を他兵站病院に協力業務整理を行ひ一、一九おわる

第十三軍司令部 部黑崎隊 累ノ

(一部帰還五三名)

当部隊は單面舟艇中隊にして中華民國江蘇省蘇州に在り、才大七 碓泊場司令
部及軍史隊教育隊（北村隊）と共に才十三軍水路輸送隊を編成しありたるも
部隊主力の支那側留用に依り其の一部（五三名）帰還せるものなり。
主力と分離し帰還召喚解除までの行動左記の如し。

部

主力と分離し上海に復駐す。

上海出飛（才三十一機廿九）

博多港上陸、同日解除

全員異状なし、復員完結解除、

昭三三、二八

三、二〇

三、三三

第十三司令部上海検査班

部長名 陸軍軍医少佐 山下嘉明

人員 少尉 岡崎省三以下六名

部隊行動

昭三、四一八 部隊と分離廿一次夜着護送要員として上海オ一五兵站廢院に集結す

二九 ヲハロロ三三乘船三〇日上海出航す

五二 佐世保入港

五、四 発疹ヲフス発生の為八日上陸 佐世保海兵団内に隔離さる

五、一六 隔離解除一七日凡南驛駅より乗車す

中支休り

第十三軍司令部（旧才大兵站勤務隊）

輸送指揮官 陸軍大尉 井牛 照義

発信年月日 昭五、一、三十一

昭三、三、二八

上陸に於て主力と分属先発として乗船の命を受け同日乗船す
乗船名 陸防艦 生野

昭三、三、二九

上陸港出港同日三十一日 佐世保入港

三、三一

佐世保に上陸

四、一

より二日に亘る間の列車にて帰郷船に分乗す

事故の概要

輸送向及び上陸向共に事故なし

昭三、三、三二

陸軍大尉大塚崑士以下 九四名

オ九兵站勤務隊

(外に遺骨護送員として参謀部、石原上等兵以下二名同行)は遺骨二五三
柱遺留品ニ七梱を奉持してワハロリ上海市政府に到り中国側の検査を終了し
たる後市政府に持出す。

三三四

一ニロロ此江橋橋に到り駆逐艦相に乗船同日一三ロロ出帆二十五日一四ロロ
佐世保港入港上陸針尾海兵団兵舎に到り宿營す。

三三六

一ハロロ復員式挙行

三三七

大塚大尉以下三六名はワ七一五南凡崎駅発列車に依り二日市復員本部に遺骨
遺留品を護送引渡したる後大塚大尉、米沢曹長は後援整理の爲復員本部に發
函其他は飯御す。

大滝軍曹以下五ロ名ロ七一五、上村軍医中尉以下四名、ロ八四七新砦上等兵
以下四名は二三一五南凡崎発列車に依り夫々飯御せり。

中支内

昭三、三一三

第十三軍司令部才田兵站勤務隊
一四、〇日 指上海市政府に於て携行品検査を受け遺骨二三五柱を護送せり、
飯田桜橋に於てVo一三三号に乘船す。

〃 三、一四 一三、四日 全右出帆

〃 三、一九 〇八、三〇 博多上陸

一四、四日 復員式挙行

一五、〇日 主力を以て博多港駅を出發す

第十三軍司令部の第一師八兵站勤務隊の要

陸軍少佐

谷田 吉次

概

要

年月日	内容
昭三、一、一五	<p>上海地区吳淞永安紡内に於て才六九師司令部、独立歩兵才八三、八三、百十九大隊才六九師田野嶽病院より才十三軍司令部附（輜屋）となりたるものを以て編成を完了す</p> <p>編成人員佐官一、中（少）尉三、下士官一〇、兵、九九主計隊官一、下士官一、軍医尉官一、准生、下士官一、同兵田計一、二一名</p> <p>陸軍上等兵木林金作吳淞才一三七兵站病院ニ入院</p> <p>才八兵站勤務隊廢止の命令を受領尔後ニ五迄命令指示に基き施設及軍務品の処理を実施す</p>
三、一八	<p>内地帰還に附する命令を受く、</p>
三、二二	<p>才一三七兵站病院に入院中の木林上等兵脚氣兼急性腸炎にて死亡遺骨及遺品を受領す</p>

二二五

兵站勤務に關する全部の処理を完了し軍司令部に復帰す。

三七

陸軍中尉京田清一參謀部勤務

三六

歩兵中三田連隊長の指揮に入り軍保官の横臂三百九十七柱横濱泊品六十五相を

輸送し上海港に於て LST 90 五七号に乘船九日出帆

三一三

博愛港に上陸歩兵中三田連隊長の指揮を離れ岡山少尉外百十七名を除隊へ召集

解除を命じ帰郷せしむ

上海兵站地区司令部の一部ヲ九次復員者恩付

年月日	概略
昭三、八一四	終戦當時に於ては支那派遣軍司令部内、各部隊に所属し居りたるが孰れも家族携行者なりし爲、上海へ復讐を命せられ夫々家族と行動を共にし
九二	南京出發、
九三	上海到着
昭三、二七	直ちに上海兵站地区司令部に入り同兵站並に家族留舎に分宿し待命中有りし処、復員返還の爲東船を命せられ諸般の準備を了し家族同伴にて
二八	栄豊丸に乗船、上海を出發し
一三	長興島に上陸、同地に於て復員解散の後、各自郷里に帰省せり、右文試官、
昭三、二二六	<p>崔備人、五九名の残務整理は藤井營長之を担任したるもの存り、</p> <p>終戦後復員に伴う部隊行動概況以下の如し</p> <p>上海兵站地区司令部</p> <p>陸軍法務部長 藤井 敦 馬</p>

中文四九

第十三軍上海兵站地区司令部の一部累丁

年月日	概	要
	大隊長陸軍通訳官 橋光三以下一四三名	
	内訳 支那派遣軍總司令部副官部	三
	〃 軍医部	二
	〃 野戦造兵廠	三一
	〃 缶缶材料廠	二
	〃 測量廠	三
	〃 上海陸軍部	五
	中支那野戦兵器廠	一
	〃 自動車廠	三
	中支那下士官候補者隊	一五
	〃 整理部下士官候補者隊	三

長外?

中支那拉生部下士官候補者隊	二
〃 激遣寒天隊司令官	四
〃 鐘山教習隊	三
〃 南京憲兵隊	三〇
〃 蘇州	三
才六軍聖理部	六
參謀部	一
聖理部	三
郵便本部	二
才十三飛行集團司令部	一
才一五六兵站病院	一四
才一七二	六
二 乘船地名 上海	
三 乘船年月日 昭三、三、二二	
四 上陸地名 鹿港	

昭三、二六	五 上陸年月日
六、船 名 日本丸	「南京在住軍人軍属家族ハニ家族に付一名世話係を附し上海に集結夫々担任部隊の給与を受くべし」との総軍の命令に依り
九、一	南京出発
九、二	上海到着各部隊指定の宿舍に入り担任部隊の給与を受け取りたる處、十一月 ヲ十三軍司令部より上海市協進路維新宿舍に集結し上海忠区兵站司令部の指 示を受くべしとの命に依り同宿舍に居住し曰僑として登録せり（ヤ四区ヲ十 保）
昭三、三	家族同行者は家族と共に帰還する事と取りたる各部隊に在りたる家族同行者 は夫々同宿舍に集結
昭三、一	僑引揚者と共に各保前当人員中に入り毎次帰還せり 本隊はヤ十四次上海日僑引揚者として特別の事情あるもの（入籍者、産婦 強ひ整理者）を除き我部家族同行軍人軍属全員大隊長陸軍次官補以下

(227)

2015

昭三、二、二二

一四三名を以て河田大隊を構成せり、
行動

午前四時上海維新會に集結同日上海市政府に於て支那側の検査を受け同日
夕刻日本丸に乘船午後六時上海港出帆同日二六日横濱碼頭上陸即日全員現役
滿期除隊召集解除せり。

(病以整理者陸軍技手 國保拙男一名を除く)

三九

上海
第十三區兵站地区司令部の一部

現務整理者、陸軍技手 國保拙男

支那

一、上海兵站地区司令部の一帯

二、昭三、三、一六 兼務手置員山崎省吾以下五十一名帰還目的を以て上海出
発部隊主力と分離す

三、同日山崎在員以下五十一名は辰日丸により上海出航

四、二、二一 渡野島港に上陸夫々帰郷せり

五、梅元在員は業務整理者となり

四、八 三日市に至り事務処理に任じ月日 任務終了帰郷す

昭三、三一三	第十三軍司令部第一兵站勤務隊署
一四〇〇	舊上海市政府に於て携行品検査を受く、廣野大六三柱を護送せり。
一九〇〇	飯田篠橋に於て以て、兎に乘船す。
一四	全右出帆
一九	〇八三〇 博多上陸
〃	一四〇〇 復員式挙行
〃	一五〇〇 主力(本土方面)を以て博多港駅を啓車す。
兵力	將 校 一五名
	下士官 四三名
	兵 二三五名
	軍 属 八名
	計 三〇〇名

<p>昭三三、</p>	<p>年月日</p>
<p style="text-align: center;">ノ六十師団司令部署ノ</p> <p style="text-align: center;">概</p> <p style="text-align: center;">要</p> <p> 軍令陸甲ノ八号に依リノ六十師団ノ編制を令せりる 吳江、無錫、常熟、江陰、武進、宜興原ノ警備並着郵工作に任ず 歩兵ヲ五六旅団司令部は軍令に依リ九月初旬上海に預駐し軍直轄となり上海 市ノ警備に任ず 東京に於て編成を完結せる独立歩兵ヲ百十二、百十三、百十四大隊及野 戰病院は五、三三現地に到着す 師団は軍令に依リ独立混成ヲ十七旅団ノ警備を繼承することに定められ五 月末迄に各其警備交代を完了す 其ノ警備地区は武進自手、以東揚子江南側地区なり 師団野戰病院を現地に到着と同時に常州に位置せしめ患者の收養に任ぜしむ 軍令に依リ警備地区ノ変更に伴い新に百一六師団ノ一大隊を増加せり </p>	

揚子江北岸南端如裏及海内の警備を継承担任し嘉年原の警備を才七十師団に委譲す。

師団は江北地区の清郷工作実施に先立ち歩兵三大隊（1218 1145 及 1140より）砲兵大隊（を以て江北才一期清郷地区の討伐を実施す。

懲に実施せる討伐に層接し歩兵三大隊を以て江北才一期地区清郷工作を開始す。

才百十六師団よりの砲兵大隊は師団命令に基き

京前屋上後新に才六五師団独立歩兵才百三八大隊の砲兵を受け同大隊を海内に位置せしめ海内果及如泉果各一部の警備並清郷工作に任ぜしむ。

師団は軍命令により、歩兵才百五旅団長擬少將の指揮する三ヶ大隊を基幹とする兵力を広徳作戦に参加せしむ。

本作戦に引き継ぎ師団は濠陽金壇地区の警備を併せ担任す。

師団野戦病院主力は軍命令に依り一三、二四常川出發

安慶に前進し才百十四師団長の指揮下に入り同地に位置し患者の収療に任ず。

五、一

九二九
五二七

口支月リ

い

B

(32)

2020

軍命令に依り六月初旬歩兵ヲ五旅團長秋岡少將の指揮する歩兵三大隊を基幹（main）兵力をオセロ師團長指揮下に入れ浙西沿岸作戦に参加せしむ。又十三軍追撃力ニシテ大隊は三二八日編成完結と同時に蘇州に於てオ六十師團長の指揮下に入る。

師團野戦部隊は軍命令に依り独立オ六旅團長の指揮下を脱し、

三三一日師團に復帰し再び弟冊に位置し患者の収養に任ず。

師團は軍命令に依る警備地区の變更に伴い独立歩兵オ四七大隊を自輿に同力百十二大隊を支隊として同力百十四大隊を丹陽に集結し先号作準備に任ず。

歩兵オ五九旅團司令部及同隷下各部隊主力は六二七 常熟に集結し先号作戦準備並に之加強化に任ず。

八一四 大詔漢発せりる師團は直ちに戦斗行動を中止す。

師團は武漢解除の爲九月初旬より同二五日に亘り隔地駐留諸部隊を蘇州に集結す。

二九	<p>中国が三方面軍日軍品接收委員会が混合組々長少将周鴻恩以下米蘇九月二日より接收を開始し一〇、二〇日に各軍品の接收を概収完了せり、 炬団は才三方面軍司令官の命に依り一、一六日より復員帰還の爲上海兼街を開始す。</p>
二一五	<p>司令部主力上海に兼結首梁呈致に於て帰還部隊の区署及中国側雇用者の処置に俟事す 難波少佐以下一八四名上海に於てカ九兵站兼務に俟事、九月一五日任務を解除せらる。</p>
路三、三三三	<p>本兵站勤務要員は二一三日カ大ロ炬団司令部に編入す。</p>
三二四	<p>一部帰還として陸軍少佐丸末樹義以下三三一名上海出発 佐世保に上陸同日夫々除隊す。</p>
五、六	<p>復員本部に於ける業務整理者陸軍大尉山内健吾陸軍曹長末領光雄</p>
五、一	<p>一部帰還として陸軍中佐甲藤紀以下一〇名上海出発 博多上陸同日夫々除隊す。</p>

中支トノ

昭三、四、一、二

五、一

五、二

五、三

陸軍少将安藤忠雄は独立混成隊六十二波団長代行として
該波団司令部と共に上海出發

復員本部に於ける残務整理を完了除隊す

兼下塔揮下部隊入院患者を除き全員二五〇名收容を完了乗船を待機す

帰還命令に基づき師団長落合松二郎以下二五〇名 市政府に於ける携行品の検

査の後、デー・V. 68号に乗船決定飯田機橋に前駐す

一五〇乗船を完了同時に於ける乗船部隊左の如し

漸次指揮官ヲ六十師団參謀長陸軍中佐伊藤新次郎

ヲ六〇師団司令部 (主力) 五八名

ヲ六〇 (一部) 一九二名

病馬廠

六〇五名

甲支隊員内

二	船司漢口支隊三大隊	八八六名
二	船司漢口支隊四大隊	八七九名
一	十一軍司令部	四名
一	十三船田司令部	三名
一	五八師田先遣隊	三名
	野戰造兵廠漢口支隊	二五〇名
	八八師行大隊	五八〇名
	獨立歩兵才九旅團	二名
合	計	三四六二名
二七	一五、一〇 上海出帆	
三〇	〇六、五〇 博愛沖に攻鎗	
六三	博愛港上陸	
同日	師田長陸軍中將憲台松二郎以下二四五名は一六、〇〇博愛港列車に依り	

六

夫々除隊す。

復員本部に於ける業務整理者陸軍少尉平山松夫以下五名
復員完結

(31)

2025

第六〇炬田司令部の一部

第六〇炬田司令部

炬田長

中将

兼合 松二郎

共五

甲藤中在以下一〇名帰還の目的を以て
上海出發、司令部主力と分離す。

〃

甲藤中在以下十名(將校五、兵五)リベラーに依り上海出發

共一

廣野上陸 軍政者一名も無く残務整理者に名を添え同日帰郷せり、

甲藤中佐、島宮主計中尉は残務整理者となり五、一

二日市に到り軍政處理に任じ、一回 任務終了帰郷す。

第六十師團司令部(一)部(略)略

第六十師團司令部陸軍少佐松本大造本部以下三三九名師團命令に依り内地帰還を命じらる。

輸送指揮官陸軍少佐丸木樹義

昭三、三二〇

一、帰還部隊はモ澤出発

上海旧市政府に於て連合軍側の携行品の検査を受け同地に留營す。

三二一

連合軍の命に依りし丁ヲ九六一号に便乘し上海を出帆す。

輸送船し丁は三三三日在港到着翌二十四日丁に分乘し全員無事在港保に上陸す。

同日除隊、召集解除す。

第六〇師團司令部

独立混成旅第六三旅團職員事務取扱

陸軍少将 安藤 忠雄

昭三、二、二六

独立混成旅第六三旅團長代行を命ぜらる。

昭一〇

独立

を免ぜらる。

独立

職員事務取扱を命ぜらる。

昭一三

独立混成旅第六三旅團司令部と共に上海港出帆

昭一九

佐世保上陸

昭三二

三日市に在り事務処理に任じ五月一日任務終了帰郷す。

步兵第五十五旅團司令部署

第廿三一大隊

年月日	概要
昭七、四二〇 五、六二二	<p>編成完結</p> <p>單々陸甲カ八号に依り、獨立混成カ十一旅團の要員を差替とし、江蘇省侯錫に於て編成完結す。</p> <p>舊備地区</p> <p>常熟地区</p> <p>蘇州地区</p> <p>侯錫江陰地区</p> <p>常州宜兴地区</p> <p>行 動</p> <p>江蘇省江陰侯錫武進吳、常熟太倉地区の舊備並海南線鉄道舊備及蘇州地区并三期清野工作に從事す。</p>

(41)

2029

八一八	六一四	昭三、三二八 、八一四	昭三、三二八	昭三、三二七 五、六二二	昭三、三二九 、五、三三一
<p>司令陸甲中百十六号に據り全員復員を命じらる。</p>	<p>終 戦</p>	<p>江蘇省呉、呉江常熟太倉（一部）崑山（一部）無錫江陰武進宜兴溧陽金壇地区の警備及海南線鉄道警備に従事す。</p>	<p>常州地区 無錫地区 溧陽地区 蘇州地区</p>	<p>再編成完結 軍令陸甲中一八号に依り歩兵中五五旅団を江蘇省無錫に於て再編成完結す。 警備地区</p>	<p>取支隊（昭三、三二九）を編成し本郷方面に行動す 取支隊（昭三、三二七）を編成し臨朐方面に行動す</p>

昭三九一	停戦協定休戦条約成立
昭三九二九	授 駐 江蘇省無錫江陰、武進自六安陳陽地区の警備をオニ七師団に授護し江蘇省蘇州城内へ授駐し授收を特期す、 防務交代
昭三、四、三	中国陸軍オニ三才函軍オニ九八軍オニ五師オニ十五師の到着に伴い昭三九三、三、常熟地区の防務を該軍と交代し江蘇省蘇州へ授駐す。 授 收 兵器馬具諸軍需品の授收を終了す
昭三、四、一六	以下各表取換のEの不明 復員完結

独立歩兵第四大隊履歴

年月日	概略
昭三、九、	大隊の前身は第十一師団后備歩兵第三大隊にして歩兵第四連隊補充隊に於て編成完結（大隊長陸軍歩兵少佐白田弘）同月中支吳淞に上陸尔后歩兵第四連隊に配属上海大場鎮南翔攻略戦斗に参加更に軍直轄となり兵站警備に任ず
昭三、一、	より本部隊は上海南甬に位置し南橋、崇明島、浦东、楊樹浦、南甬越区の兵站警備に任ず
昭三、二、	本部隊は上海中心区に移り更に二月江湾 ^女 宮に移駐兵力を集中す
昭三、四、	上海警備隊の指揮下に入り本部隊を嘉定に位置し大倉、嘉定、宝山地区の治安警備に任ず
昭三、五、七、	第十一師団教備歩兵第三大隊は復員完結し新に教隊を募集として独立歩兵第四大隊編成（大隊長陸軍歩兵中佐、石井栄）され、独立混成第十一旅団の

概

略

昭五、一三	一三、三〇	三三、	四五	昭六、三	昭六、二二 三五	昭五、一三	昭五、五三 〇三	昭五、三	昭一、五、一
<p> 部下に入り引継ぎ上海警備隊に配属治安整備に任ず 初度入隊初年兵として大隊軍隊 区より約三百七十名入隊す 本属に後級本初は浙江省平湖県平湖に位置し平湖県の治安整備に任ず 部隊全力を以て江南作戦に参加す 大隊長石井大佐は敵团长病氣入隊の為敵团长代理として敵団を指揮す 新大隊長陸軍中佐山本多領吉着任す 部隊全力を以て蘇北作戦に参加す 高松煙隊区より初年兵約三百五十名入隊す 前項作戦に引継ぎ大湖西方作戦に参加す 本隊を滄里鎮に位置し江蘇省武進県滄里鎮附近の治安整備に任ず 新大隊長 陸軍中佐 栗屋延着任す 江蘇省常熟に現駐 常熟附近の清郷工作並に地区整備に任ず </p>									

(58)

2033

昭二七、二	四二〇	高松連隊区及松山連隊区より初年兵約三〇〇名入隊す。 編成改正に依り独立混成中隊十一隊用独立歩兵中隊六隊を基幹として中隊六十 師団歩兵中隊五十五隊用独立歩兵中隊六隊編成完結し引継ぎ常駐附近の清郷 工作地区警備に任ず
昭二七、一	昭二八、三	近衛歩兵中隊一連隊より補充員約五〇名転入す
四五	近衛歩兵中隊五連隊補充隊より東京連隊区出身初年兵約四〇〇名転入す。 本邦を蘇州に移駐し吳興、吳江、常熟の警備、清郷工作に任じ後に太倉 崑山兩県をも担任す	
昭二五、一	八	歩兵中隊二補充隊より東京連隊区出身補充兵約一二〇名転入す
二	華兵団編成要員として連中隊長陸軍中尉渡辺正利以下約二百名転出す。 歩兵中隊二補充隊より東京連隊区出身初年兵約四百名転入す	
六、二〇	新大隊長陸軍少佐大森勝一着任す	
七	東部中隊四連隊より補充員約一三〇名転入す。同時頃中隊三師団より約二〇名	

(66)

昭五二	転入す
三	波糸川補充員教育中迄及不能者約三十名転入す。
二	現役員教育中迄及不能者約三〇名転入す。
三	上海滬函中の香港駐在隊員約四〇名転入す。
昭三、二、二五	直部隊要員約二百五十名転入す。
五基幹とする約二百名転入す。	波立警備歩兵や立大隊補充要員として選制才四中隊（中隊長陸軍中尉渡辺馨）
一	歩兵や二補充隊より約二百五十名朝鮮出身兵約七〇名
三	更に現地入隊朝鮮出身兵約三〇名、初年兵入隊転入す。
六四	本土兵補充要員として東北軍管区司令部に転居の爲西本大隊以下二七名同じく六
一五日青野伍生軍曹以下三名転出す。	本部は常態に転駐し全力を以て光号作戦準備築城に任ず。
六二七	平和衣取の大部派送せられ十月滿洲地区の警備を中国側に移譲し
八一四	蘇州東中營に全兵力を集中す。
一〇、五	

子文内 15

昭三三三

乗船内教発令

三二四

輸送指揮官陸軍少佐大森勝(以下)一五二名内地帰還のため上海出發

三二八

博多港上陸

三二八

博多に於て復員式を挙行茲に編成以來赫赫たる功績と光輝ある厂史を有せし
大隊は復員を完結せり。